

小平図書館友の会 会報 34号



発行日 2015年5月15日
発行者 小平図書館友の会会長 剣持 香世

ブログ <http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kltomonokai/>

もくじ

巻頭コラム 「読書と私」	1
「なかまちテラス開館」 小平市立仲町図書館 佐藤智江里さん 寄稿	2
会員寄稿 「図書館友の会と私」	3
講演会レポート「図書館の新しい楽しみ方」 ～ 竹内庸子さん講演会 ～	4
第17回 チャリティ古本市報告	5
学習会報告	
声に出して本を読む会	6
読書サークル・小平 / 図書館について学ぶ会 / YAを楽しむ会	7
障がい者サービス学習会 ～ 第16回図書館障がい者サービス交流会 ～	8
図書館協議会報告	8



なかまちテラス
2015/3/22 撮影

読書と私

木谷 英子（会員）

日本に初めて図書館ができたのは昭和5年と聞いています。それより数年遅れてわが家にも小さな本箱の図書館ができました。同じ色の背表紙の本が並んでいました。

「口笛吹いたら 犬が来た なんの気なしに 吹いたのに……」

元気な子供だった私は、本よりも外が好きでしたが、何となく開いた何ということもないこの小さな詩がきっかけとなって、それから再々本箱の前に立つようになりました。恐らく子供向けの文学全集だったと思うのですが、空襲で焼けてしまいました。

戦後はそれまで目にすることもできなかった横文字の本を、辞書を片手に読んだ中でも、特に覚えているのは、ヘミングウェイの「老人と海」など。その頃、大類 伸（おおるい・のぶる）の「現代世界史」も貴重な本でした。子育ての終わりの頃は新古今和歌集の臨書をしながら1冊を2年かけて読みました。

長い人生、老後に入るところ目を患い失意の時もありましたが、PCに音声ソフトを入れて耳で聞くという視覚障がい者救済の恩恵を受け、また、サピエ図書館*のお陰で、加齢を忘れて読書を楽しむ日々を過しております。

*小平市立図書館では視覚に障がいのある方などを対象とした情報提供サービス「サピエ」に加盟し「活字による読書が困難な方」に対してデイジー図書をダウンロードして貸し出すサービスを行っています。

3月13日、仲町公民館と仲町図書館の機能を一体化した「なかまちテラス」がオープンしました。世界的な建築家、妹島和世氏の設計による建物は、外観の斬新さだけでなく小平市民にとってたくさんの可能性を秘めた複合施設として期待が寄せられています。

その「なかまちテラス」の魅力を若手図書館職員の佐藤智江里さんに寄せていただきました。

特別寄稿

なかまちテラス開館

(小平市立仲町図書館 佐藤智江里)

平成27年3月13日(金)に開館しました、なかまちテラスは公民館と図書館の機能を一体化した生涯学習施設です。「つどう・まなぶ・むすぶ」を役割とし、日常生活に根ざした学習、学術及び文化に関する事業を行う公民館機能と、図書や雑誌、新聞などの資料を収集・整理・保存し、市民へ提供することで学習や研究、課題解決の役割を担う図書館機能をひとつにし、地域の学びとつながりづくりの拠点となることで、生涯学習の振興や地域の活性化を目的としています。

*

開館から1ヶ月が過ぎましたが、日々、職員としてフロアに出ていると感じたことがあります。それは「図書館スペース、公民館スペース、カフェスペースという区切りが、この建物にはあるようでない」ということです。例えば、2階の児童書コーナーでお母さんがお子さんに読み聞かせをしているところへ、1階カフェでマフィンを温めている香りが漂ってきたり、1階新聞コーナーで新聞を読んでいると、地下のお琴サークルの演奏がきこえてきたりと、違うスペースにいる人の活動も意識のなかに入ってくるのです。建物の構造からしても、これまで異なる場にいた人たちの交流が生まれたり、各機能の相互利用ができるような施設なんだなと実感しています。

*

従来の公民館とは「実際の体験から学ぶ・知る・感じることのできる場所」、そして図書館とは、いわば「図書資料から学ぶ・知る・感じることのできる場所」でした。そんなふたつの場がひとつになった、なかまちテラスは「資料から知ったことを、実際に体験できる」「体験から感じたことを、資料でより深く学べる」など図書館機能・公民館機能を相互に活用した学びの機会が得られる可能性をもった施設だと言えます。

開館後、3週に渡り、なかまちテラスでは毎週末開館イベントを行いました。1週目のテーマ「おひろめ会」からはじまり、2週目は「見る・聞く」、3週目は「体験会」というふうに、徐々に施設との関わりを深めてもらえるようなプログラムの組み方をしました。そんななか、1週目に調理機能を備えた学習室3にて行われた「お菓子作りのデモンストレーション」は、まさに上記の「図書館・公民館機能の一体化」を象徴したものとなりました。

まず、図書館の児童担当が絵本『ぐりとぐら』の読み聞かせをしたところで、地域でお菓子づくりを教えてらっしゃる講師の方へバトンタッチ、作中に登場するカステラの作り方をデモンストレーション形式で披露していただきました。絵本を読んで「おいしそうだな」と感じたカステラの作り方を学び、実際に匂い・味まで楽しめることができたこのプログラムは、来場者にも大好評でした。今後もイベントの際にこういった企画を行っていきたく考えています。

*

このように、なかまちテラスは、従来の枠にとらわれることのない機能をもった施設となる可能性を、まだまだ秘めています。しかしそれは、利用者、地域の方、地域コミュニティ等の力なしには実現できません。

「なかまちテラスLINKS」はそんな考えから「みんなでつくる、みんなのなかまちテラス」を合言葉に、なかまちテラスの活用方法を皆で考え、実行してゆく協働の場・ネットワークです。地域の方々の方をつなぐコーディネーター的役割なども担っています。小平図書館友の会からも何名かご参加いただいています。上記の3週にわたる開館イベントも、皆さんの人脈や行動力なしには到底実現しませんでした。

平成26年度夏に萌芽し、これまで様々な企画・運営を行ってきました「なかまちテラスLINKS」ですが、課題もあります。そのうちのひとつが、「図書館機能を活かした事業が少ない」ということです。例えば、小平図書館友の会と共催で開催される「なかまちテラス de ビブリオバトル」のような企画を、これからもっと積極的に行っていけたらと考えています。今後ともなかまちテラス、ひいては小平市立図書館発展のため、どうぞよろしく願いいたします。



会員寄稿

図書館友の会と私

(風間禎之助)

あれからもう10年ぐら
い経つのかも……。

ある日我が家へ某新聞社
から分厚い封書が届き、中
にはまた封書と新聞社から
の簡単な手紙が入っていま
した。



「先日我社の投稿欄に載ったあなた様の記事にあ
る読者から同封致しましたような反響がありました。
確認致しましたところあなた様にご迷惑のかかるよ
うな内容ではないと判断いたしましたので転送いた
します。あとは手紙の方と連絡を取られるか無視さ
れるかをあなた様の方でご判断して下さい」——と
いうような簡単な手紙だったと思います。

同封されていた封書には「小平図書館友の会 S」
と名前が記されていて、中には友の会広報誌と
Sさんの丁寧な手紙が入っていました。突然の手紙
を差し上げることへの非礼を詫げる事と図書館友の
会がどんな活動をしていてどんな組織かが綴られて
いたと思います。そして「近く何月何日に小平中央
図書館にて友の会主催の講演会がありますので是非
お越しいただければ幸いです」——と。

*

その手紙を見ても私はあまり興味も湧かなかつた
のですが、当日別段用事も無く、家からもさほど遠
くないし天気も良かったので、散歩がてら自転車
で行くことにしました。もし当日雨でも降っていたら
その後の私と友の会の関わりは永遠に無かったかも
知れません。

今ではその時の講演がどんなものだったかもま
るっきり覚えていません。しかし講演が終わってS
さんにお会いして——初対面でしたが、他の方がS
さんのお名前を呼んでいらして“あの方がSさんか”
とすぐ分かりました——話しをしてみたらめっちゃ
くちや良い人だとすぐ分かりました。何だか“良い
人オーラ”全開の人でまるで魔術にかかったように
知らぬうちに友の会に入会させられてしまっていま
した。

私も自分で言うのもなんですが結構“良い人”で
素直でお人好しなもので、人に頼まれたら嫌と言え
ない性格なものですからこの時も直ぐに誘いに乗っ
てしまいました。

今でもちょっと迂闊だったかなと……。こんな私
がこれまでに「振り込め詐欺」に遭わないでい
られたものと我ながら感心しています。えっ！ああ、
詐欺犯も我が家には肝心なものが無いと調べればす
ぐ分かるので無駄なことはしないのですね。

*

話が少し逸れましたが友の会に入って分かったこ
とがあります。それはよくもこれだけ『善人』が集
まったものだという事です。何で皆さんこんなに
良い人なんだろう、そして報酬なんてないのにどう
してこんなに一生懸命やるのだろうか？と不思議で仕
方ありません。小平の図書館が充実して欲しいから
とか、本好き同士で集まって会話したいとかあるの
でしょうが、それだけでは説明できないようなお人
好しの集まりです。まして友の会メインイベントと
も言うべき『古本市』に至っては事前に何日も打ち
合わせして、準備段階から大量の重い本を搬送した
り会場に陳列したりの大重労働。とても無報酬で出来
るような仕事ではないと思うのに皆さん愚痴も言わ
ず、それどころか嬉々としてこの古本市を楽しんで
いるようです。お人好しにも程があるように見えま
すが、多分それは何もしなければ捨てられてしま
うような本が別の人によって価値のある本に生まれ変
わることに充実感があるのでしょう。

かく言う私もなんでか一生懸命になって古本市を
お手伝いしてしまいます。まあ私の場合は会期中に
会員の皆さんが手作りしてくれる美味しいご馳走が
食べられること、豆から挽いて煎れてくれる美味し
いコーヒーが飲めること、何よりも終わった後のF
さん邸で至福の一杯が飲めるという意地汚くて至っ
て不純な動機で一生懸命になっているという呆れた
人間なんですけどね。

*

どうですか。まだ友の会に入られていない方でお
人好しの方、この拙文を読んで友の会に入りたく
なつたでしょうか？ 随時会員募集しております。

ところで誤解されては困るのですが図書館友の会
には『古本市』だけでなくいろいろなサークルがあ
り、それぞれが楽しくいろいろな活動をしています。
『YAを楽しむ会』『声に出して本を読む会』『読書
サークル・小平』『障がい者サービス学習会』『図書
館について学ぶ会』etc... また、年2回著名な作
家さんなどを招いて講演をして頂いたり、文学散歩
と称して近隣の作家縁の地を散策したり、いろい
ろなことをしています。

興味のある方、詳しいことが知りたい方、「小平図書館友の会事務局」へご連絡を…お待ちしております。

*

川柳駄句五句

- 『読むよりも飲むが楽しい友の会』（私だけ？）
 『電車内絶滅危惧種読書人』（スマホ中毒蔓延）
 『睡眠薬よりも私に効く読書』（歳とともに…）
 『漱石とはどんな石かと大学生』（文豪も遠く…）
 『妻の留守へソクリ探査愛読書』（全集の間かも…）

講演会レポート

竹内庸子さん

— 図書館の新しい楽しみ方 —

2015年2月28日

(剣持香世)



皆さんは「東京図書館制覇!」というWEBサイトをご存知ですか?これは東京都23区すべての公立図書館を訪問し、その訪問記を公開している図書館愛好家の竹内庸子さんのサイトです。

その竹内さんの講演会「図書館の新しい楽しみ方」を小金井市立図書館貫井北分室で聴いてきました。

*

図書館はどこもさほど変わらないだろうと思いつながら始めた図書館訪問に見る間にはまってしまったのは「こんな図書館があるんだ!」という驚きからだったそうです。まずはその驚きの図書館のいくつかを紹介されました。

比較的大きな図書館の例を挙げると、葛飾区の中央図書館と立石図書館はなんと年末年始の休みがない図書館です。また神保町を抱える千代田区千代田図書館は古書店の売り物の本を陳列し、さらに「コンシェルジュ」による古書店ツアーなるものも企画されています。日比谷区の日比谷図書文化館では鎖国時代の洋書が多く並び、貴重な本を惜しげもなく触らせてもらえるそうです。北区の中央図書館は建物が戦前の赤レンガ倉庫でレトロな雰囲気。素敵なカフェもありとても寛げるとのことです。

一方小さな図書館でユニークなのは練馬区の稲荷山図書館で、昆虫標本がずらりとならんでいます。実際に昆虫も飼育しているとか。また豊島区の千早図書館*は漫画家横山光輝さんの住まいが近くだったこともあり正面に大きな鉄人28号がお出迎えて

す。もちろん横山さんの資料は充実しています。板橋区のポローニャ子ども絵本館は広いとは言えないスペースに世界の絵本が並んでいます。借りることはできないのですが職員の方との会話が楽しい図書館だそうです。

次に建物の形が面白いのは何と言っても昭島市のつつじヶ丘分室です。公園のなかに新幹線の先頭車両が……。この中が図書館になっていて、座席は一部をそのまま閲覧席として使い旅の気分で読書ができます。

立地でユニークなのは大国魂神社の敷地内にある府中市の宮町図書館。併設の公文書史料室に100年前の新聞が毎日更新展示されていて、タイムスリップのような不思議な体験ができるそうです。また絵原村立図書館は地元の木材を贅沢に使っており、靴を脱いで入ります。川のせせらぎ、鳥の声も聞こえる癒しの図書館です。遠いのでなかなか行けなかった島しょ部には昨年足を運び、八丈町立図書館にはさすが釣りやダイビングの本が充実していたとのこと。

「図書館めぐりをしながら実は東京めぐりを楽しんでいるんです」と竹内さんの弁。講演は休憩をはさんで本題「図書館の新しい楽しみ方」へ移りました。

*

最近はいろいろなイベントが催され、その中でよくマスコミや雑誌に取り上げられるのが

「本の福袋」*1 「ビブリオバトル」*2

「ぬいぐるみのおとまり会」*3

の三つです。図書館は本との出会いだけでなく人との出会いも作る企画が増えてきたとのことのお話です。

練馬区南田中図書館では氷川神社のお祭りとのコラボを実施しています。また練馬区南田中図書館・貫井図書館・大泉図書館が共同制作したブックマップは地域の図書館+本屋+古書店+ブックカフェなど本に関するスポット全てを紹介する地図を作りました。江戸川区の東部図書館は駅からのアクセスが不便であるのを逆手に取り図書館周辺を案内した「お散歩マップ」を作成しています。世田谷区の代田図書館は「ちびっこ読書検定」の問題を当初は職員が作っていましたが、参加していた子ども自身が問題を提案し、以後それをを用いることにしたそうです。一方、墨田区ひきふね図書館では近くの店主たちがオススメ本を選び、それを図書館で紹介し、オススメ本を借りるとその商店での特典が受けられるというユニークな企画を開催しました。利用者や

自治体の産業振興課も協力して実現した企画で、図書館が仲立ちする形で商店と利用者を結んでいます。

*

竹内さんが紹介されたいくつかの取り組みの多くは図書館と地域の利用者が一緒になって作られたもの。「新しい楽しみ方とは、図書館が何かやってくれるのを待つのではなく、利用者がもっと積極的に関わっていくことです。企画書を持ち込むくらいの勢いで図書館を作って欲しいです」と話されました。また「よい図書館とは直営や指定管理、業務委託などとは関係なく、その地域に合った図書館がよい図書館だと思います」との言葉が印象的でした。

訪問した図書館をたくさん紹介したいとの竹内さんの熱意があふれた講演会でした。最後に「皆さんも旅先などで図書館をのぞいてみてください」とのこと。その際は地域資料や郷土の歴史コーナーに寄る、座って職員や利用者を観察する、他に掲示物などを見るのも楽しいそうです。

*

「東京図書館制覇！」

<http://tokyo-toshokan.net/>

.....

*¹本の福袋…利用者は、中身がわからないようにラッピングされた袋に書かれたヒントだけを頼りに選び、意外性を楽しむもの。その名の通り年末年始に行われることが多い。

*²ビブリオバトル……知的書評合戦と呼ばれるこの催しは、数人が各自オススメの本を5分間語り、2分間の質疑応答を経て、その場に集まった人たちの投票により「一番読みたくなった本」チャンプ本を決めるもの。熱く語る発表者と読書の世界を広げたい人たちが出会う場。

*³ぬいぐるみのおとまり会……これは子ども向け。夜の図書館に大好きなぬいぐるみを預け、翌日ぬいぐるみを引き取りに来た子どもに、ぬいぐるみが絵本を読んだり図書館の中で遊んでいる様子を写真撮影して渡すイベント。

※ 豊島区立千早図書館は2015年4月7日から8月（予定）まで耐震補強工事のため休館中。



第17回 チャリティ古本市報告

毎年恒例のチャリティ古本市を3月28日（土）と29日（日）の二日間、小平市中央公民館ギャラリーで開催しました。会場での寄付本受付は、3月25日（水）から27日（金）の三日間。今年も市民の皆さんからたくさんの本を寄付していただきました。

集本数	約 25,000 冊
来場者数	約 1,400 人
販売冊数	約 9,800 冊
図書館へ寄付	85 冊
売上金	約 34 万円

古本を寄付してくださった方、ご来場・お買い上げくださった方々、ありがとうございました。

経費を差し引いた収益金は小平市立図書館への物品寄贈に充てます。昨年は、ローラーカッター、パンフレットスタンド、木製ローチェア、裁断機、シュレッダーを、市内の各図書館へ寄贈しました。

また、2012年（第14回）から毎年、収益金の一部を一般社団法人「みんなのとしょかん」*¹に寄付しています。残った本の一部は次回開催に備えて保管し、保管しきれない分を社会福祉法人「共働学舎」*²に寄贈しました。

会期中、小平図書館友の会会員 30 名程とボランティアの方々が、ちからを合わせて運営にあたりました。参加者した会員から、「たいへんだったけど楽しかった」「たくさん買っていただいて嬉しかった」「無事に終わってよかった」「次回はさらに工夫したい」等の声が聞かれました。



（入山弘之）

*¹一般社団法人「みんなのとしょかん」……震災や自然災害などにより移住を余儀なくされ、コミュニティの再生が急務とされる地域や、過疎化が進む地域に、コミュニティを醸成できる場所として図書館を設置する活動を行っています。

<http://www.mintosho.org/>

*²社会福祉法人「共働学舎」……町田市にある障害を持つ人のための授産施設。さまざまな障害を持つ人が「できること」「やりたいこと」を皆さんで協力しながら行っています。

<http://page.freett.com/kyoudougakusya/>

～ 17 回目の古本市に参加して ～

古本市では、一冊 50 円、30 円という価格で本が手に入るのですから、本好きの方には素晴らしいチャンス。今年は、昨年より更に大勢のお客様で賑わい、開催を手伝ったスタッフ皆が充足感を味わえた日々となりました。

私が古本市の裏方のお仕事を手伝ったのは、二回目なのですが、スタッフの働きぶりには、びっくりでした。少しご紹介しますと、昨年の残本の搬入作業、これはかなりの重労働です。他に、机や棚の設置。集本数のカウント。会計。紙袋や段ボールの用意。そして、残本に加えて、三日間（3/25～27）で集まった本を順次見やすいように陳列していく仕事等があります。陳列する際は、たくさんの本を分類しながら、並べていくのですが、一心不乱にやらないととても終わりません。並べても並べても、新しい本が運び込まれるので、終わりが見えず、私も時々、茫然として手が止まりそうでした。

でも、会員やボランティアの方々が力を合わせて開催日前日には陳列完了。古本市当日、本に手を伸ばして真剣に選んでいるお客様をみると、とても嬉しく思いました。来年は、どんな本が来るのか楽しみにまた古本市の準備に励みたいと思います。

（小畑淳子）

初めてレジの袋詰め担当になりました。お客様の全体的様子を知ることができてとても楽しかったです。

値段の安さに、思わず小躍りしそうなくらい、嬉しそうに笑う人、「女房に怒られちゃうんだよな～」とわかっちゃいるけどやめられない(^_^)の人、こんな本どこにあったの？と私が何度見回っても目に入らないであろう本を見つけてくる人、「もう買わないから」と宣言して支払を済ませた後、三歩あるいて「やっぱりまだ買いたいな……」とつぶやく人。

お客様がそれぞれ家に帰って、手に入れた本を目の前に積んでにんまりする顔が目には浮かび、私も幸せな気持ちになりました。

古本市はお客様と会員に、本プラス小さな幸せのおみやげ付ですね。

それから、布の袋を持参してくださるお客様は、大変ありがたかったです。紙袋は適宜なものを選ぶのに手間取りますし、重さに耐えられるか心配しながらお渡しすることになります。マイバック持参をもう少し呼びかけたらよいのでは……1冊プレゼントは難しいかな？と思いました。

（杉本順子）

学習会報告

声に出して本を読む会

～ 盛会裡に「第10回ことばの玉手箱」～

今後の活動へ弾み

「声に出して本を読む会」は 2005 年に産声をあげ、内山恵司さん（会員）のご指導と演出家のご協力を得て、演習の定例化と最低年一回の発表会開催をめざしてきました。今年は、ひとつの節目ともなる第 10 回発表会を開催しました。

*

3月7日(土) 午後 西東京「コールド田無」ホール

第一部「詩のころを読む」——小野田正さん(演出家) 構成・演出、会員全員で。

第二部「東京物語」(小津安二郎) ——内山恵司さん・大森晶子さんのお二人が情感豊かに熱演。

作曲家でピアニストの中村夏子さんとチェリストの山崎明子さんの演奏で盛り上がりました。満員の会場からは 10 年目にふさわしい、あたたかい応援をいただき、出演者一同、感激すると同時にほっとしました。

この後、「なかまちテラス」(新仲町公民館・図書館)の開館記念行事に参加しました。

3月22日(日) 午後「なかまちテラス」

清水順子さん——「鼓くらべ」(山本周五郎)

吉田淑江さん——「神無月」(宮部みゆき)

門坂徳子さん——「虹の岬の喫茶店」(森沢明夫)



なかまちテラス 発表会の様子
2015/3/22

(左上から)

内山さん

清水さん、吉田さん、門坂さん



朗読を通じて感動をお伝えすべく、「継続は力なり」をモットーに、次回も一歩前進でお客様をお迎えできるよう「声に出して本を読む」の意義を確かめあいながら、来るべき日への準備と演習を続けることにしています。

（雑崎亮平）

読書サークル・小平

「読書サークル小平」では、課題本を読んで感想や意見を話し合っています。

課題本は「社会」「科学」「文学」等々ジャンルを問わず次回までに読み切れる新書、文庫を中心に決めています。あまりなじみのないジャンルの本もあり、読みこなすのに苦労することもあります。皆さんの深い読みの感想や豊富な知識に納得したり感心したり、毎回新しい発見があるのが魅力です。

また、会の前半ではリーダーの大森さんが提供してくださる話題の出版物や出来事を題材に話し合っています。

図書館、作家や著者、社会の情勢など様々な話題が飛び交い、皆さんのいろいろな意見や感想を聞くことも楽しみになっています。

開催日は、原則、隔月（奇数月）第3日曜日の午後、会場は中央公民館です。

会員だけでなくどなたでも参加できますので気軽に参加してみませんか。（藤原紀子）

—11月～3月のテキスト（課題本）—

- 11月 『憲法の「空語」を充たすために』 内田 樹
かもがわ出版
- 1月 『おとなの教養』 池上 彰 NHK 出版新書
- 3月 『新・戦争論』 池上 彰・佐藤 優 文春新書

図書館について学ぶ会

「図書館について学ぶ会」は、近隣の図書館見学を続けています。昨年9月の東村山市立中央図書館見学に続き、今年は1月14日、東村山市立廻田図書館・萩山図書館の2館を見学しました。

廻田図書館は、閑静な住宅地にある広々としてきもちのいい図書館。ティーンズコーナーが充実しているほか、こどものための「お話しの部屋」が落ち着ける雰囲気のある洒落たスペースでした。テーマ展示も充実しています。図書館ボランティアの会や文庫の会なども巻き込んだ、全市的なボランティア活動が充実している印象を受けました。

萩山図書館は、西武線萩山駅から近く利用者も多いようです。書架や椅子などが落ち着いた緑色に統一されていて、いい雰囲気でした。

一番の特色は東村山市立図書館全体の共同閉架書庫があること。その規模の大きさに驚きました。事務所裏の2フロアにずらりと書架が並び、17万冊を所蔵。日時を決めて見学会も開催しています。

「学ぶ会」では、これまで見学してきた市外の図書館のうち、2009年以降の10館*について紹介する小冊子を作っているところです。乞う、ご期待。

*千代田区立千代田図書館、府中市立中央図書館、新宿区立角筈図書館、あきる野市中央図書館、五日市図書館、武蔵野プレイス、青梅市立中央図書館、東村山市立中央図書館、廻田図書館、萩山図書館

（入山弘之）

YAを楽しむ会

「YAを楽しむ会」では、ヤングアダルトの本を毎月2冊読み、感想や意見を交換し合っています。

様々な年齢層のメンバーが集まり、昔の話や、故郷の話、個人の思わぬ体験談等、コミュニケーションを楽しんでいます。一人で読んでいるとサラッと流してしまっている事柄に他の人がスポットを当てることで、なるほどと、気づかされることもあります。

私は昨年から参加している新米メンバーですが、初めに読んだ本は「ゲド戦記」「ホビットの冒険」「ベーオウルフ」でした。初めは、高齢者に差しかかった私がYAの本を楽しめるのかと疑問に思いましたが、紹介された本を読んでもみると、ドキドキ、ワクワク、素直に楽しめるのです。子育てや仕事から解放されて、また、童心に帰ったのかもしれない。

そんなわけで、一冊一冊を丁寧にじっくり味わいながら、これからも読んでいきたいと思えます。

（小畑淳子）

—11月から4月に読んだ本—

- 11月 『庭師の娘』 ジークフリート・ラウベ／岩波書店
『ねずみ女房』 ルーマー・ゴッデン／福音館書店
- 12月 『クリスマスの猫』 ロバート・ウェストール／徳間書店
『寺町三丁目十一番地』 渡辺茂男／福音館書店
- 1月 『ディダコイ』 ルーマー・ゴッデン／評論社
『真夜中の電話』 ロバート・ウェストール／徳間書店
- 2月 『ムーミン谷の彗星』『たのしいムーミン一家』
トーベ・ヤンソン／講談社
- 3月 『遠い日の呼び声』 ロバート・ウェストール／徳間書店
『ゆびぬき小路の秘密』 小風さち／福音館書店
- 4月 『クラバート』 オトフリート＝プロイスラー／偕成社
『ローズの小さな図書館』 キンバリー・ウィリス・ホルト／徳間書店



障がい者サービス学習会

～第16回図書館障がい者サービス交流会～

第16回目の障がい者サービス交流会が3月18日、中央図書館視聴覚室にて開催されました。参加者は図書館5名、社会福祉協議会2名、視聴覚障がい者7名、ボランティア団体4名、ガイドヘルプ5名、図書館友の会6名、その他1名、計30名。

湯沢館長の挨拶に続き、鬼沢サービス係長より26年度の実施事業報告がありました。視覚障がい者のデジ（デジタル録音）図書貸し出しが昨年の700タイトルから1300タイトルに急増したこと。

この利用率の高さはサピエ（全国の点字図書館が加盟しており、その所蔵する資料が借りられる組織）への加盟、ボランティアの養成、外部への周知等、障がい者の利用しやすい環境づくりへの努力が窺われる報告でした。

次いで27年度の実施計画について窪田サービス係長より報告があり、昨年は活動を拡大する年であったが、本年は質の向上に努めたい。生活に密着したオリジナルな録音図書づくりや、図書館への来館困難者のためにボランティアによる宅配サービスを考えている旨、話がありました。

その後、障がい者から積極的な図書館利用の状況が紹介されました。今後は図書館利用者を増やしていくことが課題であると感じました。

なお、この会の運営が今回から主催・小平市立図書館、協力・小平図書館友の会になりました。小平図書館友の会はこれからも障がい者サービスを応援していきたいと思えます。この学習会を通して障がい者サービスをしっかり進めていく意気込みを感じました。（名取公子）

図書館協議会報告

2014年度上半期の図書館協議会については既にご報告済みですが、下半期の動きを加えて年度1年間としてみても、上半期について述べた事とトピックスとしてはさほど変わりません。新仲町図書館の開館であり、第3次小平市子ども読書活動推進計画の策定です。一言でいえば頭で考えていた事が、次々と具体化した事と言えらると思います。ここでは新仲町図書館に限って報告と私感を書かせて頂きます。

新仲町図書館は、公民館機能との本格的な一体化であり、その事によってもたらされた開館時間等が小平市の他の図書館（すべてではありませんが）に変化をもたらしました。中央、花小金井、小川西の3館の閉館時刻が2015年度のみでの試行ですが、1時間繰り下がりました。この3館だけの開館時間拡大で建物管理委託料と光熱水費が年間400万円ほどかかると言われています。人件費は今回は職員シフト変更により僅かの増加に収まっている由ですが、昼のシフト帯の配置人員が少なくなっているのではと考えさせられます。新仲町図書館は朝の開館も9時と早まっています。

新仲町図書館は開館時のラッシュ状態は解消していますが、書架に主としてどんな本を配架しているかといった表示がなく、私は新仲町図書館に行くたびに3階をうろうろしています。ありがたいのは新仲町図書館の椅子が来館者数に比べ多く感じられ、ゆっくり座って本をあれこれとみることができ点です。カフェもまだ利用者が少なく、新仲町図書館に行かれたら是非カフェをご利用下さい。

（塚本健男）

小平図書館友の会 これからのイベント

小平市立図書館・小平図書館友の会 主催
なかまちテラス de ビブリオバトル
2015年5月17日(日)
第1回 13:30～/第2回 14:30～
場所：なかまちテラス ホール



小平図書館友の会 主催
講演会
赤坂憲雄さん
「遠野物語から
会津物語へ」(仮題)
2015年9月13日(日)
13:30～15:30
開場 13:00 定員 80名
入場無料
場所 小平市中央図書館
3階 視聴覚室

小平図書館友の会 主催 講演会
谷津矢車さん「こんなに面白い徒然草」
～徒然草って なんなんだ？～
2015年5月23日(土) 13:30～15:30
開場 13:00 定員 80名 入場無料
場所 小平市中央図書館 3階 視聴覚室